

# DOSHISHA

Tokyo Journal

同志社東京ジャーナル

2021  
Autumn  
No.125



## 同志社スポーツ特集号

### 同志社東京校友会 INDEX

- TOKYO 2020 東京オリンピック・パラリンピック  
同志社アスリートの健闘に拍手！  
フェンシング 金メダル！ 宇山 賢選手  
陸上 日本新連発の快走！ 田中希実選手  
7人制ラグビー 主将で大奮戦！ 松井千士選手  
東京オリ・パラに出場した同志社アスリート
- 2021 初秋の集いガイドブック  
幻の表紙と特集を皆さんへ
- スポーツ憲章制定と同志社スポーツ

表紙写真：東京オリンピックのフェンシングで金メダルに輝いた 宇山 賢選手(右端)

- ラグビー人気復活と同志社ラグビー
- 私の学生時代とスポーツ
- 同志社スポーツ  
ラグビー部 春季トーナメント優勝
- 登録団体活動レポート・同志社東京 41 会
- 片桐家同志社五代記 (三十八)
- 連載コラム 今出川・京田辺四季
- リユニオン&ホームカミングデーのご案内
- 校友会「俳壇」

# オリンピック・パラリンピック トの健闘に拍手!

月5日)。コロナ禍中の開催ではあったが、参加選手、中でも同志社アスリートの大健闘に拍手を送りたい。



表彰式で。左から加納、見延、宇山、山田の各選手

## 宇山賢選手、フェンシング・エペ団体で大殊勲の金メダル!

コロナ禍中の開催でありながら

東京校友会のメインイベントである「春の集い」は、2020年の場合、オリンピックの開催延期の決定とともに中止を決定。そして、この2021年の場合も、「初秋の集い」として開催時期を9月に設定したにもかかわらず、コロナ禍収らず、ということ、残念ながら再度の中止となったのはご存じの通りです。

ただ、万全の形で、皆に祝福されながらのオリ・パラ開催であるべきでしょうけれど、こうし

た状況下であっても「スポーツの力」が我々に多くの感動を伝えてくれたことは確かです。そして、今回の五輪アスリートの活躍の中に何人もの「同志社人」の輝きがあったことも、我々は率直に喜びたいと思います。

さて、今回の五輪での日本のメダル獲得数は金27、銀14、銅17、合計58個で、総数のみならず、特に金メダル数は過去最多ということになり、開催国としての盛り上げに大いに貢献してくれたのでした。

そして、その「金メダル獲得」トレンドをいっそう加速させたのが大会前半での「男子フェンシング・エペ」での金メダルだったのではないのでしょうか。

### 太田雄貴から宇山賢へ

今回は「スケートボード」や「サーフィン」といった新種目の若い選手たちの自由闊達な躍動ぶり、とりわけ、十代の日本人選手の金メダル獲得が大会の前半を活気づけてくれました。

そして、その活気に一層の勢いをつけたのが「男子フェンシング・エペ」の金メダル獲得です。加えて、我々同志社人にとってうれしかったのは、その中での宇山賢選手（14年 商・三菱電機）の大活躍でした。



男子エペ団体決勝、ROCの選手からポイントを奪う宇山選手（右）

スケートボードやサーフィンに比べれば、フェンシングはオリンピックの本筋というか、ヨーロッパ伝統の種目。逆にいえば、日本では「おなじみ」というわ



がんばれニッポン!

TOKYO 2020 東京オリ



## 同志社アスリー

様々な話題を提供してくれたオリンピック(7月23日～8月8日)とパラリンピック(8月24日～9月5日)



太田雄貴国際フェンシング連盟副会長(左端)と武井壮日本フェンシング協会会長(右端)も歓喜の輪へ

けではありません。

ただ、そういった状況が08年北京オリンピックでの太田雄貴選手のフェンシング・フルール個人銀メダルから大きく変わり始めました。ご存じのように太田選手は同志社大学商学部卒(08年)のアスリートで、続く12

年のロンドン大会でも団体で銀を獲得。その後、日本フェンシング協会会長に就任して後進を育てるとともに、IOC委員として国際的なスポーツ界でも活動の幅を広げています。

ですから、今回の男子フェンシング代表たちの合い言葉は

「太田さんの銀を超えよう」だったとのことで、見事にその目標を達成したのが今回のエペでの金メダル獲得だったわけです。

その太田さんの後輩としてフェンシング五輪代表に選ばれたのが宇山賢選手でした。宇山選手は香川県出身で、高松北高2年のときにインターハイ優勝。同志社大学に進学後は全日本学生選手権のエペで史上初の3連覇、4年生では全日本選手権優勝という逸材。

190センチという長身を生かしたスケールの大きな「剣法」で、そのリーチを生かせるように剣の握り方を工夫したことで急成長したとのこと。

「大学の練習は基本的に“自分で考えてやりなさい”というスタイルで、そういった自主性を重んじて人間性を成長させながらやるというのが自分にはあっていた」と、いかにも同志社らしい思い出を語っています。

## リザーブから金へ

宇山選手は、現在、三菱電機の所属。ワールドカップの団体エペ優勝など、国際舞台での実績も積んでのオリンピック代表入りでしたが、今回は団体出場3人枠の4人目、つまり「リザーブ」



大役を果たした宇山賢選手

での選出。それくらい実力伯仲の代表選出だったわけです。

そうして7月30日、エペ団体が始まる第一戦対アメリカの第8ピリオド、それまでエペを長年引っ張ってきた見延和靖選手の不調という緊急事態。これを受けて、ここから宇山選手の緊急出場となったのですが、慌てず臆せずの実力発揮でリードを拡大、まさに「あつぱれ」な大活躍を見せてくれました。

このアメリカ戦だけでなく、決勝となったROC(ロシアオリンピック委員会)戦にも出場。格上相手にも臆せず、長身を縮めて下から首元を突く得意技で大あばれ。次々とポイントをあげるエース級の働きを見せて、フェンシング日本勢初の金メダル獲得に大貢献したのです。国際フェンシング連盟副会長として表彰式で花束贈呈をした太田雄貴さんが感涙に噎んでいたことは言うまでもありません。

# 田中希実選手、日本新連発で歴史的快走!

日本新連発でオリンピックへ

今大会のハイライトといえるような強烈な印象を残してくれたのが、田中希実選手(スポート健康科学部4年・豊田自動織機T.C.)の陸上5000mと1500mのレース。それはまさに「日本女子陸上界にスター誕生」の大活躍でした。

もともと、中長距離選手として中学時代から注目の存在でしたが、同志社大学に進学後も父をコーチとして成長・進化を続けていました。とりわけ今年に入ってから、3000m、1500mで日本新を連発する充実ぶり。大いに期待されていた五輪代表入りとなりました。



1500m準決勝で力走する田中希実選手

張るレースを展開し、5位という着順、しかも日本女子初の4分切りという日本新記録で決勝進出決定。インタビューでも「理想のレースが出来た」と答えながら、マスク越しでも分かる笑顔を見せられました。

そして、決勝の8月6日。出場も日本女子

ただ、陸上女子の中長距離は

絶対女王ハッサンをはじめアメリカ出身者の独壇場。スピードとラストの強さのある田中選手でも、なかなか、というのが一般的評価だったと思います。

そして迎えた7月30日の夜、5000m予選の第2組で田中選手はスタートラインに立ちます。

実況中継の解説は「細かすぎるデータ」でおなじみの増田明美さん。案の上「田中さんは同志社大学の学生で、勉強もよくしていて、アイルランド文学が大好きなんですよ」という紹介。これを「同志社女子大との単位交換もあるそうですよ」とアナウンサーが受ける、法人同志

社が大喜びしそうな展開。田中選手はアスリートとしてはいつも豊田自動織機T.C.と紹介されますので、我々としても妙にうれしい実況中継ではありました。

ただ、残念ながらわずか0秒38差で決勝進出ならず。インビュゾーンでそれを聞いた田中選手は、大げさに悔しがるともなく、淡々と、そして、しっかりと受けた答えを続け、テレビ視聴者にも「心は折れていないぞ。次の1500mに切り替えて」という彼女の心情がよく伝わってきたのです。

## 決勝レースの歴史的快走

迎えた8月4日の1500m準決勝。2週目から先頭で引つ



歴史的な快走で8位に入賞し、日の丸を掲げる田中選手。小柄な体がひととき大きく見えた

初という1500mで、なんと決勝レースという夢の舞台。田中選手はスタートから先頭集団に食らいつき、ラスト一周では6番目。ゴールは8位となったものの、五輪中距離ではあのレジェンド人見絹枝さん以来93年ぶりの入賞という歴史的快挙。「メダル獲得に匹敵するほど

すごいこと」という声もある中、田中選手の笑顔は達成感に満ちていました。

また、レースぶりとは別に、「自分の言葉」でしっかりとインタビューに答える姿に「走る詩人」「走る哲学者」という異名が付けられたことも、ある意味特別なことだったと思います。



# 松井千士選手、7人制ラグビー主将で大奮戦！

メダルへの夢、届かず

7人制ラグビーの結果を、一番悔しがっているのは松井千士選手（17年・商卒・横浜キヤノンイーグルス）本人ではないでしょうか。前回のリオオリンピックで4位という好成績をあげ、地元東京オリンピックではメダル獲得を期待されていた7人制ラグビーですが、結果は決勝ラウンドに進めなかっただけでなく、

出場12チーム中、11位、7人制初出場の韓国に勝っただけという、極めて残念な結果となっていました。

すべては初戦のフィジー戦にあつたような気がします。フィジーは南太平洋の小さな島国ですが、元イギリス領で、ラグビーは国技。そして、リオオリンピックの7人制ラグビーで同国初の金メダルを獲得しています。もちろん今回

も金メダルを目指す指しでの出場ですが、スロースターターというチームカラーもあつて、日本にも充分勝機あり、というのが戦前の予想でした。

松井選手は、大阪・常翔学園で花園優勝に貢献、同志社大学でも早くからそのスピードが注目されて主力に。そして、リオ五輪の折も7人制メンバーに

選ばれて予選から活躍しました。ただ、代表入りはならず、バックアップメンバーに。その後、社会人ラグビーで実力アップを図る中、今回の7人制代表に選ばれ、しかも主将に任命されたのでした。

さて、7月26日のフィジー戦。確かにフィジーはスロースターター的な戦いぶり。ただ、松井選手の独走トライもあつたものの、日本に凡ミスも多く、結局19-24で競り負け。大魚を逸してしまいました。それを大いに悔しがったのかと思いきや、松井主将によると、「大敵相手の善戦で、チームに油断が生じた」とのこと。そうした精神的な緩みが後の試合に出てしまったのか、英国には0-34の完敗。カナダにも松井選手のトライがありながら12-36と大敗して、予選全敗。競技2日目でメダル獲得は夢と消えました。

松井選手は「リーダーとしてメンタルが弱かった」と自らを責めたとのことですが、3年後のパリでのリベンジをぜひ、と願っておきましょう。

文責／谷村和典（72年・文）

## TOKYO 2020 東京オリンピック・パラリンピックに出場した同志社アスリート

競技	選手名	学年・卒業年・学部	種目・成績
オリンピック			
フェンシング	宇山 賢	2014年商学部卒	男子エペ団体 優勝（同志社史上初の金メダル）
空手	國米 櫻	2015年文学部卒	女子形 5位入賞（アメリカ代表）
ラグビー	松井千士	2017年スポーツ健康科学部卒	男子7人制 11位（主将として出場、4トライ）
射撃	中口 遥	2020年スポーツ健康科学部卒	女子10mエアライフル個人 本戦出場（32位）
			混合10mエアライフル団体 本選ステージ1出場（13位）
サッカー	林 穂之香	2021年スポーツ健康科学部卒	女子 8位入賞
陸上競技	田中希実	スポーツ健康科学部4年	女子1500m 8位入賞（日本人初）
			女子5000m 予選出場
パラリンピック			
アーチェリー	岡崎愛子	2008年商学部卒	女子個人（車いす W1） 5位入賞
			混合団体（車いす W1） 6位入賞
	上山友裕	2010年商学部卒	男子リカーブ個人（車いす、立位など） 17位
			混合リカーブ団体（車いす、立位など） 5位入賞
車いすバスケットボール	柳本あまね	2021年女子大学生活科学部卒	女子 6位入賞

※同志社スポーツユニオンの出場予定者リストを基に作成（卒業年順）

# 開催断念の「初秋の集い」のガイドブックが準備していた 幻の表紙と特集を皆さんへ

9月4日(土) 開催予定の「初秋の集い」は、コロナ禍のため中止になりましたが、実は中止になった昨年の「春の集い」のガイドブックの原稿を今年のガイドブックに掲載する予定でした。しかし今年の「初秋の集い」も中止、ガイドブックも発行中止となりましたので、その表紙と記事を「同志社スポーツ特集号」として今号に掲載することになりました。

## 表紙デザインと武田知也さん

母校のキャンパスはやはり美しい！

この表紙を眺めて、思いを深めた方も多いだろう。無償で表紙デザインを引き受けてくださったのは、京都に本社を置くPR会社「テイスト」の社長、

武田知也さんだ(96年経済学部卒)。

武田さん

は日本興業銀行(現在のみずほ銀行)に入行、総合商社、中堅・大企業向け営業を担当したが、自分の能力を高めようと選んだ転職先は、お父さんの経営するデザイン会社「テイスト」だった。バトン

を渡してくれたお父さんはただ一言、「好きにやったらええ」。

それまでは印刷メディアだけだった商品に、ウェブメディアを加え、そしてトータルな企業PR、とビジネスを拡大してきた。

「B to B(企業間取引)」にも、PRの潜在需要があります。ニッチに頑張ってる企業をPRしたいですね。会社の本質に迫る心構えがないと、いいものは作れない。これは、銀行時代に学んだことです」

武田さんには、もう一つの顔がある。監督として、同志社大学ボート部を率いて、2017年、19年には、大学選手権優勝した。ボート部OBではあるが、技術指導はやらない。「もっぱら人(コーチの選出)、モノ、カネに専念します」。新入部員の獲得、練習の方法など、すべて学生たちに決めさせている。と言いつつも、週三回は、練習に顔を出しているとのこと、「彼らの顔を、じかに見ることが大事なんです」。

なるほど。武田さんも、同志社スピリットを生きている卒業生の一人だった。

文責/東多江子(77年・文)

\*(株)テイスト <https://taste.jp/>



## Doshisha Spirit



今こそ同志社スピリット！  
コロナに負けず、集え我ら

同志社東京校友会

## 2021 同志社東京 初秋の集い

幻となった「2021 初秋の集いガイドブック」の表紙 (キャンパスのパノラマ写真は同志社大学提供)



# スポーツ憲章制定と同志社スポーツ

体育会会長  
中谷内一也  
(心理学部教授)

スポーツ団体一般に、その古い体質や不透明な運営方法などについて様々な指摘がある中、同志社大学は「良心教育の発展と深化」をキーワードに「スポーツ憲章」を制定しました。

2019年10月、同志社大学はスポーツ憲章を制定いたしました。内容は前文と5つの項目からなり、同志社大学がスポーツをどうとらえ、どのように推し進めようとしているかが示されています。

前文から順に見ていきましょう。

同志社大学は、「良心を手腕に運用する人物」を養成する一環としてスポーツ活動に取り組み、良心教育の発展と深化を目指す。

項目のうちのひとつではなく、前文に「良心教育」が明示されていることの意味は校友の皆様には説明不要でしょう。同志社の全ての基盤がここにあります。

個々の項目に移りましょう。

1. 我々は、スポーツ活動を「教育の場」と位置づける。学業とスポーツ活動を教育的に融合させて学生の成長を促し、主体的に考えて行動できる「知・徳・体」の調和のとれた人物を育成する。

同志社大学ではスポーツを教育の一環としてとらえます。近年、学生スポーツにも商業主義の波が押し寄せ、大学の知名度向上の道具として利用する向きもありますが、同志社大学はそのような姿勢とは距離を置きます。主体性を強調するところに同志社らしさがあり、また、この項目の終わりの部分では、同志社徽章のイメージが浮かんでくるでしょう。

2. 我々は、フェアプレイに代表されるスポーツパーソンシップを尊重する。スポーツにかかわるすべての人に敬意を払い、スポーツコミュニティを支える国内外のさまざまな活動に積極的に取り組み、スポーツを通じた社会貢献に努める。

スポーツへの取り組みによって公正さ、高潔さを高め、お互いに尊重し合える関係性を構築する。それがスポーツのもつ社会的役割のひとつであり、教育現場で重要視されるべき側面であると考えます。

3. 我々は、競技成績の向上を目指してトレーニングに励む学生を支援する。学生自身が目標達成のために計画を立てて実行し、その過程において他者との信頼・協力関係を築き、リーダーシップやコミュニケーション能力を伸ばすことを期待する。

中谷内一也体育会会長



競技を行う以上、目標は勝利することです。し

かし、同志社大学は結果のみならず、勝利に向かうプロセスを重視します。そのプロセスの中で主体性と他者との関連性を磨き、それらが高い次元で結びつくことを求めます。

4. 我々は、コンプライアンスを重んじ、スポーツ活動やスポーツ指導における身体的・精神的暴力を許さない。心身の健康を脅かすハラスメント行為を禁じ、常に安全かつ適正な活動・指導を行うとともに、事故を防止するための環境整備と安全教育を推進する。

スポーツ組織では指導者・学生間、先輩・後輩間、卒業生・現役生間の結びつきが強く、ハラスメントのリスクがあります。ですので、それを許さないと言明することに意義はあります。ただ、同志社のスポーツにかかわる人たちは、外的に与えられた規律によるのではなく、内面化された規範によって理不尽なハラスメントから自由であるべきと考えます。

5. 我々は、スポーツを通じた同志社アイデンティティの醸成を促す。学生や教職員、卒業生、さらには同志社スポーツに関係を持つすべての人々、すなわち、同志社スポーツを「する人」、「観る人」、「支える人」のつながりに価値をおく。

校友の皆さんに最も強く訴えたいのがこの項目です。ぜひ、現役学生たちを、さらには各種競技で頑張っている卒業生たちを温かく、時には熱く、応援してあげて下さい。また、スポーツ観戦は同志社人としてのリュニオンの貴重な機会となります。勝利のカレツジソングは格別ですよ！

# 人気復活とラグビー



東芝ブレイブルーパス東京 採用担当  
ラグビー元日本代表  
**望月雄太**  
(ラグビー部・2004年・文)

「ラグビー・ワールドカップ」日本開催の成功で飛躍的に上がったラグビーへの注目度。それを「同志社ラグビー」復活にどうつなげるのか。

## ラグビーはルールがむずかしい？

2019年ワールドカップ日本大会が盛況の内に幕を閉じたことにより、現在、ラグビーの人氣は復活の兆しを見せています。

ワールドカップの出場選手をその目で見てみたいという熱からラグビーファンが急増し、トップリーグにおいてチケットの売り切れが続出するという、過去に例を見ない盛り上がりです。

大学ラグビーも例外ではなく、大学選手権決勝は6万人収容の国立競技場が満員になるなど、世代を超えて注目度が増しています。世界レベルの大会が国内で開催されたからとは言うものの、一体なぜ、ラグビーがここまで注目されるようになったのでしょうか。

これまでラグビーが身近に親しまれなかった理由として、「ルールが難しい」「ごちゃごちゃしていてよく分からない」などを、よく耳にしてきました。

注目されるようなスター選手が不在であることに加え、日本代表の実力は世界水準に照らしても決して高いとは言えず、世界のトップチームと戦えるレベルではなかったことも理由に挙げられます。

ラグビーがなかなか注目されなかった起因は、数え上げれば少なくはありませんでした。そんな厳しい向かい風の中、まだ記憶に新しい2015年ワールドカップにおいて日本代表が南アフリカ代表（当時世界ランキング2位）を撃破し、スポーツ界最大の番狂わせとして世界中を驚愕させる大金星を挙げたことにより、国内のみならず世界までもが日本ラグビーに対して関心を持ち、注目度は一気に上がりました。

そして、この大会では、「五郎丸歩」というスターも生まれました。

この成功は今大会においても間違いなく追い風になると、誰もがそう信じて疑いませんでした。しかし、そのフィーバーも徐々に失速し、ワールドカップ開催が近づくにつれて、ラグビー人氣はすっかり下火に落ち着いてしまっています。

関係者の方々の不安が尽きなかったであろうことは、想像に難しくありません。

2019年の年が明けても日本でワールドカップが開催されることを知らない知人と話をするたびに、私も危機感に駆られ不安を感じました。

## ワンチームというスローガン

その後、ワールドカップ開幕後の日本代表の躍進により、世間のラグビーに対する反応が再度好転していきます。

開催当初、ワールドカップの試合は、放映権を持つ日本テレビが取り上げるに留まり、他局のニュースでの紹介もあり見られませんでした。2戦目のアイルランド戦に勝利したところから一気に注目度が上がってラグビーの話題が連日持ちきり、パブリックビューイングは常に超満員、まさに空前のラグビーブーム到来となりました。

日本代表が史上初のベスト8進出を達成しそのブームは加速、名実ともに日本にラグビーが根付いた瞬間となりました。

一方、ラグビーに興味を持ってもらえなかった「ルールが難しい」などのハードルは解消されたのでしょうか？  
ワールドカップ後、もうそれを懸念する声はなくなっていました。



東芝ラグビー採用担当の望月雄太さん

ラグビーを観る機会が増え、ルールが分からなくても面白いと感じてくれる人が増えたのは、ルール云々ではなく、日本代表の試合に至るまでの準備や戦う姿勢、試合後の精神など、その心に響く理念が、実は日本人にとってもマッチしていたからだと思っています。

また、2015年ワールドカップでは、ヒーローがほぼ一人にクロウズアップされたのに対し、今大会は、「ONE TEAM」というスローガンのもと、選手スタッフだけでなくファンをも巻き込めるスタンスであったことが、大会閉幕後も、ラグビーが日常に浸透し続けている証拠であると思います。

## メッセージ性のある試合とは

ここで、ステージを大学ラグビーに移して考えてみたいと思います。

今、ワールドカップで共感を得た感動を生み出すことは、大学ラグビーでは不可能でしょうか？ 私はそうは思いません。

ラグビーに限らず、大学スポーツは4年間という短い期間しかできない期間限定のものであり、そこにかける学生のエネルギーは、観るに値するものであると思います。高校野球の甲子園大会などが良い例です。





望月さんは2014年10月トップリーグにおいて100試合出場を達成した

# ラグビー 同志社

では、ワールドカップのように、大学ラグビー、とりわけ同志社ラグビーにおいて、多くの人々の心を惹きつけるようにするためには、一体何が必要なのでしょう。

競技におけるゴールはやはり結果であり、勝利に勝るものはないと考えます。

しかしそれでは、勝っているチームは人気があるが負けたチームは人気がない、ということになります。果たして、すべてにおいてその法則が当てはまるのでしょうか。

勝敗にこだわることはもちろん大事ですが、負けても、観ている人にその先に繋がる何かを感じさせる試合が出来たか、また次も応援しようと思ってもらえる姿勢でプレーをしていたか、ということがとても大切だと思います。

それはつまり、メッセージ性のある試合ができたか、ということです。

何かを強く訴えかける試合とは、「地道な反復練習により成功したプレー」「チームのこだわりがダイレクトに表現された局面」「ビハインドでも試合終了まで諦めない姿勢」「応援してくれた人への感謝の意を表す態度」——そして何より「準備したことを最後まで全うしたと思わせる立ち振る舞い」と「試合にかける想いを全面に放つオーラ」が観ている人に対して伝わる試合、ということです。チームメイトとともにプレーできる残された時間が限られている学生は、その熱い想いがより強く前面に出ますので、観ている人の心に響く試合が、自然体で表現できるということもあります。

## 過去の栄光で、良い人材は集まらない

しかし、現実はその簡単にはいかないことも周知の事実です。

私は現在（2021年9月時点）、東芝ブレイブルーパス東京にて採用担当の職にありますが、チームの強化に良い人材の獲得が必要不可欠であることを身をもって日々痛感しています。

同志社大学ラグビー部においても、昔のように、大学の名声とラグビー部の過去の栄光のみで良い人材は集まりません。

人材強化の点においても、前述のとおり、メッセージ性のある試合をするということは非常に大事ですが、その他にぜひ注目していただきたいことが2点あります。

一つ目は、ラグビーと私生活の両面において、一貫性のあるチーム創りを行うことです。部員全員がやるべきことの認識を共有していると、周りに与える印象もまとまり、インパクトを与えやすくなります。また、自分

たちの中でも進むべき方向性が定まっています。

そして二つ目は、このチームでプレーしたいと思う雰囲気創りが必須だということ。

練習中と練習後にほどよく締まった空気感があり、またラグビーを離れた場面でも、人として惹かれる一面を持っている……。

そんな佇まいを身にまとったチームは、とても魅力的に映ります。また、他チームとの差別化を図る上でも非常に大きな武器になります。

## 同志社ラグビー部への期待

スポーツは、どのカテゴリーにおいても、人に感動を与えるコンテンツであることには間違いありません。その方法は、各カテゴリーにおいて様々ですが、すべては「人」が行うことです。つまり、人やチームの行動、姿勢ひとつで、その力は0にも100にも変えられます。

今ワールドカップにおいて盛り上がりを見せたラグビー界が、この勢いを維持しているか否かは、今後、各カテゴリーにおいて関わるすべての人の肩にかかっています。

「人が」「人を」繋ぎ、「人が」「人に」色々な価値を与える。それは正に、ラグビーのプレー性そのものです。

ラグビーに根付く理念や文化を絶やさず、その姿勢を全うして良い影響を与えていくことが、ラグビーの持続的人気に繋がっていくと思います。

同志社大学ラグビー部がかつてのように、学内においてはもちろん、大学ラグビー界においても象徴的なチームになることを、心から願って止みません。





# 私の 学生時代と スポーツ

「どうしても同志社でやりたくて」「オリエンテーションで誘われて、つい」・・・。  
そのクラブ、そのスポーツに関わった理由は様々なれど、すべて涙と笑いと感動の物語。



写真上：第100回慶應義塾・同志社ラグビー定期戦（2017年5月4日） 写真下：第71回同志社大学・立教大学サッカー定期戦（2018年8月18日）



## 私を支えた仲間と誇り

アイスホッケー部 辻井久雄（1991年・商）

小生が大学時代所属させて頂いていた、体育会アイスホッケー部は、1932年創部、関西では数少ない戦前から活動が続ける大学アイスホッケー部の老舗です。同志社内ではあまりメジャーでないかも知れませんが、関西リーグでは常に1部。上位を目指し、大学日本一を決める全国大学選手権へ毎年出場する関西アイスホッケー界の強豪チームです。在籍時の部員はスポーツ推薦者とアイスホッケー経験者がレギュラーの中心で、大学入学後にアイスホッケーを始めた小生のようなメンバーは少数派でした。

アイスホッケーを選んだ小生の学生生活は試合で活躍するどころか、練習についていくことに精一杯で、自分の無力さと劣等感に苛まれる日々でした。退部はいつでもできましたが、励まし支えてくれる仲間と大学を背負って立つ誇りが支えとなり、卒業まで選手を続けさせて頂くことができました。圧倒的、絶対的劣勢

になり、自分自身のためだけだと頑張り切れなかったと思われたときでも、仲間のため、誇りのために努力し続ければ、自身の成長とチームへの貢献を実現できることを学ばせて頂きました。そういう貴重な同志社スポーツ生活であったと今でも感謝しております。

卒業し社会に出てからも、自分の限界と絶対的逆境に立たされた時、For God, for Doshisha, and Native Land! の言葉を思い出し勇気をもらっております。



## アメフト部への恩返し

アメリカンフットボール部 大野 勝（1987年・商）

1年間の浪人生活を経て合格できた第一志望の同志社大学。体育会に入る気などさらさらなかったが、アメフト部の強力な勧誘網に引っ掛かって入部。チームとしても個人としても特筆すべき戦績は残せなかったが、厳しい練習で心身ともに鍛えられ、生涯付き合える先輩・後輩・仲間を得られた貴重な4年間であった。最近あらためて、一生の財産になったと思うことが多くなってきた。

卒業後は東京勤務のため、チームを遠くから応援するだけであったが、転機は2008年から3年間にわたる京都単身赴任。同志社大学ラーニング・commons（良心館にできた学びの場）建設という一大イベントに、仕事に関わることもあって、チームとの距離が縮まった。試合会場や練習場へ足を運ぶうちに、チーム強化の手伝いができないものかと考え、その後東京勤務に戻ってから、リクルートスタッフとして、関東の高校生の同志社入学支

援をさせて貰っている。部員や卒業生が誇りや感謝の気持ちを持てるチーム、周囲の多くの方々から愛され応援してもらえるチーム、高校生から憧れの存在になるチーム、そんなチームを目指して恩返ししていきたい。

甲子園ボウルには、第一回大会以来70年以上遠ざかっている。悲願の甲子園ボウル出場を果たし、他クラブOB・OGや多くの校友の皆さまと一緒に、勝利のカレッジソングを歌いたい。それを夢に、引き続き頑張りたいと思っている。



左端の14番が筆者

## 厳しい練習と麻雀のスパイス

バドミントン部 嶋田 哲（1975年・工）

私の在籍していた1971年～1975年は70年安保での学生運動がピークを過ぎ収束しかけた時期で、入学式は行われましたが、卒業式は中止。在学中の生活を振り返ってみると、部活、麻雀、バイト。そしてたまに勉強で、1日36時間欲しいと思っていた時期です。

バドミントン部は春と秋の関西リーグ戦が部活の中心で、当時の団体戦は3複6単で朝の9時から18時頃迄の1日仕事。輝かしい戦歴を持った先輩方からは、1部を陥落したら全員坊主と言われ、4年間で通算4回の入れ替え戦で、防衛してきたのが唯一の自慢です。

練習場は第一従規館で、併設されていた合宿所で、春秋のリーグ戦前の合宿を行うのが恒例でした。新入生にとっては辛い厳しい試練、夜逃げする1年生も毎年出ていました。

バドミントンは体力を使うスポーツなので、練習前のランニングが欠かせません。大文字コース、宝ヶ池コース、外御所コースなどは、当日のキャプテンの気分で決められたようです。大文字コースのときは、内緒で帰りの市電の運賃25円を持って走っていました。

普段の練習は夕方に終わるので、その後はなじみの雀荘「ともえ」に繰り出し、そこで決着しないと、麻雀禁止の下宿へ移動。炬燵台を使い、座布団をかぶせて音を消すという技を使って、楽しみました。

こんな学生生活でしたが、社会人になってからの踏ん張りは、バドミントンでの鍛錬から得られたように思います。



## 同志社大学ボート部と私

ボート部 小関隆一 (1980年・商)

昭和44年(1969年)8月31日、第47回全日本選手権競漕大会において、同志社大学は遠来のメルボルン大学を大差で下し2連覇を飾った。この日テレビで見た同志社エイトは、私(当時札幌南高校1年)のあこがれとなった。

高校(ボート部)を卒業して4年間浪人した。といっても、4年間勉強をしていたわけではない。3年間はシングルスカル(1人乗りの艇)に乗り千葉国体、茨城国体に北海道代表として出漕するなど、ボート生活を送りながら、毎年3月には北大を受験していた。ボート浪人である。北大ボート部には高校ボート部時代の義理があった。

4年目を迎えた時に「ちゃんと受験勉強をして、北大以外も受けてみる」と父に言われ、1年間ボートを中止し予備校に通った。そして、北大と併せて同志社大学を受けた。

入試は、同志社大学は合格、北大は駄目だった。私は同志社大学ボート部の合宿所に電話を入れた。何せ4歳も年を食った変わり者である。ボート部が受け入れてくれるかどうか? ボート部が受け入れてくれなければ入学する意味がない。

電話口に出たのは主務の荻野義明さん(77年卒)だった。「何年浪人していようが、ボートの経験や戦績があるうが、入部したならまったくの1年生として扱う。それが出来なければ来るな。出来るなら来い! 歓迎する」、即答であった。

私は心の底に感動を覚えた。「出来ます。よろしくお願いします」

こうして、私の同志社大学ボート部の4年が始まった。



昭和54年同志社大学対校クルーインカレ2位、全日本3位  
写真右から2人目が筆者

## 東日本大震災、忘れられない仲間たちの支援

フェンシング部 佐藤恭子 (1995年・文)

私が同志社大学体育会フェンシング部の門を叩いたのは18歳の春。東北の小さな港町から出てきたばかりの私にとって、京の都は決して優しくはなかった。

そこから始まったのは、耳慣れない関西弁が聴き取れず、練習ではいつも遅れを取る日々だった。妙なことが鮮明に記憶に残るもので、その頃、言葉と並んで特に辛かったこととして思い出されるのは、毎日のウォーミングアップでの馬跳びだ。私の二回り以上もあるうかという男子の先輩方の作る馬は、山脈のごとく私の前にそびえ立ち、小柄な私はまったく飛ぶことができなかった。

そんな私も、大きな懐で受入れ優しく育てて下さったフェンシング部諸氏のお陰で、いつしか馬跳びを難なくこなせるまでに成長し、4回生のインカレでは大好きな仲間達とともに決勝の舞台を踏む幸せにも恵まれた。

しかし、同志社フェンシングの大きさを深く知る出来事は、そこから時間を一気に進めた2011年3月に起きる。

東日本大震災、私は東京在住だったが、私の故郷気仙沼市は甚大な被害を受けた。私の家族は幸いにも無事であったが、家族の安否が分からない数日間、そしてその後も、フェンシング部の仲間達が私を支えてくれた。先輩方や同級生、面識のなかった後輩達までもがたくさんの支援物資や義援金を送ってくれた。何より、不安な日々にあって、電話の向こうから聞こえる懐かしい関西弁が、力強く暖かかった。

入学の日から二十数年、そして震災から10年、3月になると思い出す大切な思い出である。



フェンシング部の仲間達

## 台風の中に行われた合宿の思い出

フィギュアスケート部 松本章 (1980年・文)

私が1回生の1976年9月、我がフィギュアスケート部は、名古屋大須にある名古屋スポーツセンターで合宿を行った。メインコーチの山田満知子先生に挨拶に行くと、リンクでは当時未だ小1ぐらいだった伊藤みどり選手が、6~7才のレベルとは思えないジャンプを跳んでいた。

合宿のスタート時には台風が近づいていたが、宿泊先の大須のお寺(今から考えると、何故宿泊先がお寺だったのか謎)からリンクまで、また練習後にリンクから銭湯に向かう道中は土砂降りだった。ただしどういう訳か、朝練後に行う陸上トレーニング中だけは雨が上がり、スポーツ・ドリンクがまだなかったこの頃、牛乳とトマトジュースをがぶ飲みして喉を潤していたことが懐かしく思い出される。

当時は、現在ではほとんどのリンクで禁止されている、一般客

が入るリンク営業中のジャンプ練習や集団滑走が許されており、我が部伝統のリンク100周で体力強化を図っていた。

合宿の打ち上げも終わった翌日、主将の一声で予定を早め、新幹線で京都へ戻る途中、愛知・岐阜の河川が決壊し、民家の屋根の上に車が浮かんでいる光景に目を疑ったことを鮮明に覚えている。

翌1977年、日本で初めて開かれた世界選手権で、佐野稔選手が日本人史上初の表彰台に上がった。当時は今日のように、日本人選手が世界で活躍し、オリンピックの金メダリストまで誕生する時代が来ようとは想像も出来なかった。遠い日の思い出である。





## 帰宅部でしたが体育会に入りました

ハンドボール部 槌谷智宏 (1994年・経)

高校の体育の授業がめちゃくちゃ楽しかった、ただそれだけです。大学生は文学部ではなく経済学部なら体育会に入ろうと決めて2度目の大学受験に臨みました。結果は経済学部しか合格することなく腹が決まりました。団体競技だと決めてはいたものの、帰宅部、一浪、未経験者という3つの弱みを抱えて入部できるところがあるのだろうか。脳みそをフル回転させ、マイナー競技で部員数が少ない陸上ホッケー部とハンドボール部にまで絞り、そして運命的にハンドボール部から勧誘されたのでした。

ハンドボールは1チーム7名で行いま

すが、入部当時は私を入れて総勢9名でした。しかしそれでも関西リーグでは優勝争いの一角を占める強豪校で、限界は上級生が決める！という理不尽な練習も帰宅部の無知さで乗り切りました。ただ部員不足は解消されず遂に4年の春季リーグで創部以来の2部落ちとなりました。早期の引退勧告も受けましたが、私は敢えて火中の栗を拾いに主将代理に就任しました。そしてその時に初めて気付きました。どんな状況でも最後まで諦めずに考える。自ら考えることが同志社ハンドボール部なのだと。

同志社スポーツは競技水準や背景などが異なる様々な学生たちで構成されています。多様な価値観が混在したりベラベルな集団であり、それが強さでもあり弱さでもあります。私はそんな同志社スポーツのファンとして、これからも同志と共に声援、支援、後援を続けていきます。



## 神棚のない稽古場

剣道部 橋本佳明 (1990年・経)

「チャ！」——これは、同志社の剣道場に來られる先生や先輩方に、わざわざ正座して発する挨拶の言葉だ。ここには神棚がない。剣道を志す若者が最初に感じた違和感だ。私の入学は34年前の1986年、田辺校地が開校した年である。稽古場所は今出川新町下ル「第二従規館」、または新しく田辺に出来た本格的床

板道場だった。剣道場の床は木が普通だが、第二従規館ではプラスチック樹脂、これにも違和感があった。それと剣道部は古臭い伝統を持っているものだが、同志社では「しきたり」は少し残るものの、他校にはない「自由」があった。

私が同志社を選んだ理由は、「関西の雄」であり「名門大学」だからだ。剣道部は当時関西でトップクラス、試合巧者が多いことで知られていた。剣道を極めるなら体育大学に行く選択肢もあったが、「試合に勝ちたい」「タイトルが欲しい」という理由に加え、「ちやほやされたい」「いい会社に就職したい」という気持ちがあった。もっとも試合で活躍すれば「ちやほやされる」と信じていたが、「カリスマ」「スター性」は別物だと後になって悟った。

同志社は間違いなく「カッコいい」大学だと自信を持って言える。カレッジソングも路上で歌える。剣道は「生涯剣道」と言われる通り死ぬまで稽古が出来、若い相手を撃つ快感を味わえる。

関東同志社スポーツユニオンの常任幹事として、今後も同志社スポーツと繋がれることに感謝し、その発展のために尽力させていただきます。



## 自ら考え、行動することの重要性を学んだ野球部

硬式野球部 澤井芳信 (2003年・文)

思い出のグラウンドやキャンパスに立つ、同志社の同期や先輩、または後輩に会う、そんな時、学生時代の思い出がパッと浮かびます。京都で生まれ育った私は、同志社に憧れ、同志社を卒業したことが誇りです。

今も思い出のほとんどは野球部のことです。当時の環境は決して良いとは言えませんが、みんなで工夫して練習し、勉強にも苦戦しながら、上を目指して頑張っていました。一番の思い出はやはり同立戦、多くの学生や友人が応援してくれる、あの独特の雰囲気は今でも忘れられません。卒業して18年が経ちますが、未だに大学応援部の演舞に出くわすと、あの頃が懐かしと思

い出され、試合の成り行きを措いて、見入ってしまうことがあります。

「自由」と「良心」は、新島先生による同志社教育の神髄です。「自由」の下に「良心」が育まれます。同志社スポーツの良いところは、「自由」という校風の実践にあります。当時、練習メニューは監督の一存ではなく、主将を中心に、みんなで考えて決めました。チーム力から学んだこともたくさんありますが、自ら考え、行動することの重要性を学んだことが、何より人間として社会に出てから大変役立っていると感じます。

伝統ある同志社OBには、体育会出身者が数多くおられます。先輩から後輩まで「同志社スポーツ」で繋がる方々は、同志であり、かけがえのない仲間です。今後も繋がりを大切に、誇りを持って同志社スポーツを応援していきたいと思います。



## 懐の深さと自由な校風

弓道部 村上 容 (1987年・経)

大学時代の思い出に残る場所をあげるならば、岩倉の弓道場もちろんですが、同時に、学生会館をあげないわけにはいきません。その理由は、2年生より主務を務め、情報収集や体育会の各種定例会議への出席のため、体育会本部のある学生会館へ日参する日々を送ったからです。



当時の学生会館は、学友会のピラが壁一面に貼られるなど、お世辞にもきれいな環境とは言えませんでした。なぜか居心地よく、授業の合間の休憩時に立ち寄りしました。ここで知り合った他部の主務やマネージャーと夜の河原町に頻りに繰り出したりもしました。その中で、今でも貴重な経験だったのは、

田辺移転プロジェクトです。

クラブ施設の移転に関する会議、打ち合わせが頻繁に行われ、新弓道場の青焼き図面を目の前に悪戦苦闘しました。当時の大学の窓口は、大学職員として入られて間もない岩田さん（現キャリアセンター所長、山岳部OB）。学生の稚拙な対応をフォローしていただき、大変お世話になりました。学生にそこまで任せてくれるのかと、大学当局の懐の深さと自由な校風を改めて認識する経験でした。

そのような環境下、弓道部は自分たちで試行錯誤した結果、2部から1部に復帰。全国大会で上位入賞するなどの結果を残しました。これらのことは今でも鮮明に思い出されます。そして、弓道部の先輩や同期、体育会本部で知り合った他部の仲間との深い関係は、今でも変わらず続いています。

## 同志社ラグビーの自由とは？

ラグビー部 出石賢司 (1978年・経)

同志社ラグビーの「自由」を象徴する岡仁詩先生との会話。①敵ゴールを目指して独走していた選手が敵に追いつかれて倒される。岡先生「ああいうときは前を見たまま真後ろにボールを投げる」、「先生、無茶や、敵に取られたらどうしますの?」、「その時はフォローしてる味方の選手がそいつをタックルしたらええやないか。その方が前に出る勢いを保てる」。ボールは相手を見てパスせよ、が常識の時代。②白線で描かれた10m四方の枠の中でボールを回し続ける3人組とそれを邪魔する2人組が対戦。「先生、これバスケットですやん。大体、ラグビー選手はボールを前にパスしたらあかんでしょ?」、「敵のマークを外して初めて生きたボールを貰える。最後に勝負を決めるのはボールを持たへん14人の動きや」。目から鱗の瞬間。③「スクラム押されて困るんやったら10人で組め」、「先生、また無茶言う。バックスが2人

足りんようになりますやん」、「ほな、それをどうするかを考え。8人スクラム強うするより、そっちの方が早いんとちゃうか」。これが今に語り継がれる10人スクラム誕生の瞬間。

同志社では教科書にない発想や練習を経験させてもらったが、大事なのは、いずれも「現実を素直に受け入れる」ことから始まっていたこと。その上で何を優先させるか、どう練習して身に付けるか、どんな対策が可能かを考える合理性を備えていた。そういう教育を受けたから、同志社ラグビーは優秀な指導者を輩出してこれたのだと思う。(OB 会東京支部長)



## 伝統あるクラブを目指して

ラクロス部 藤高 彩 (2011年・社会)

ラクロスは、多くの方が思い浮かべるような「ポロシャツにチェックスカートの可愛いスポーツ」からはほど遠い「地上最速の格闘球技」と呼ばれる激しいものです。同志社大学ラクロス部が創設されたのは1989年。歴史が浅く、もちろん専用グラウンドはなく、グラウンドを借りるために、毎朝4時起きで練習に向かったものです。

私が、初の「学生日本一」を目指して上京したときのこと、激励にきてくださった、他部の大先輩の言葉を忘れることができません。

「伝統というのは、長い歴史のあるクラブが持っているのではない。優勝して初めて、そこから伝統が作られる。歴史が浅いなんて、関係ない。あなた達が明日、絶対勝って伝統を作ればいい」その温かい言葉に、部員全員が背中を押されました。

試合当日も多くの先輩が応援に来てくださり、アウェーながらも、対戦相手よりたくさんの応援団で埋まったスタンドは、10年経った今でも鮮明に覚えています。そして、「同志社」の一員であることを誇らしく、うれしく思ったものです。

一昨年末に後輩達が学生決勝へ出場した際にも、多くの先輩が応援に来てくださいました。結果は日本一には届きませんでしたが、学生達もあの頃の私と同じように感じてくれていることと思います。

ラクロス部が優勝して【伝統】を作るその日まで、影ながら学生を支えていきます。先輩方にも引き続きご声援いただけますと幸いです。



プレー中の筆者



## レスリング部の現状と未来

レスリング部 <sup>せんげん</sup>仙元 <sup>たけし</sup>剛 (1987年・法)

私は同志社香里中から大学まで10年間レスリング部に在籍し、現在もレスリング部OB・OG会、及びスポーツユニオンの一員として、同志社スポーツをサポートしています。以下、レスリング部の将来への期待を紹介します。

我が部は1945年創部、西日本リーグ優勝18回、全国学生王者も輩出した、学生レスリング界の名門ですが、ここ数年は香



当時の体育会レスリング部

里中・高の共学化、スポーツ推薦数減少の影響もあり、部員数は減少、戦績も伸び悩んでいます。それでも香里高、スポーツ推薦に加え、大学から競技を始める学生の勧誘に注力しています。

また5年前から京田辺市と大学との連携事業である「京たなべ 同志社スポー

ツクラブ」にちびっこレスリングクラブを創設し、OBがスタッフとして運営しています。特に現役時に全国大学王者、西日本4連覇の小泉円OB(H3卒)が監督を務め、熱心に指導しています。

5年を経て、全国大会2位の選手が出るまでになりました。指導方針は同志社らしく、「楽しみながら、負けても頑張れる子をつくる」ことです。

現在の日本代表レベルの選手は、ほとんどが幼少期から競技を始めており、高校や大学から始めてもなかなか勝てません。将来このクラブから香里中・高、大学へ、そして我が部へ入部する子供たちが一人でも出て、あわよくばオリンピックに出場することになればと、夢見ています。

皆さま及び周囲の方でご興味があれば、ぜひ見学にお越し頂ければと思います。

## 同志社スポーツと私

陸上競技部 我孫子智美 (2010年・社会)

看護師を夢見ていた私が、「今しかできないこと」への挑戦として棒高跳びを始めて17年、以来変わらず指導を仰ぐ恩師の下で、オリンピックを目指すまでになりました。同志社では自由と良心をベースに、志を持つすべての学生を応援してくれる学風、それは入学前からイメージしていたものでした。

振り返ると、大学での練習にはあまり参加できなかった私を温かく迎え入れ、理解して下さった同期、後輩、さらに監督、先輩方には本当に感謝しております。大学のグラウンドで仲間と一緒にいる時間は、私に安心をもたらすと同時に、みんなが頑張る姿を見ると、目標を明確にすることができました。日本学生記録の更新や全日本インカレの4連覇等、目標を達成する一方、2008年、私が3年生時の北京オリンピックの出場は叶わず、取材に来てくれた同志社アトムの記事の前で大泣きしてしまい、

困らせてしまった思い出もあります。

社会人となり迎えた2012年のロンドンオリンピックには、選考会となる日本選手権で参加B標準記録と当時の日本新記録4m40cmを跳び、4年前の雪辱を果たし出場することができました。記録を出した時の感覚や長居スタジアムの雰囲気は、今でも鮮明に覚えており、またロンドンオリンピックの出場経験は私の財産になっています。

挑戦し続けることの素晴らしさ、尽きない学びと悩み、それらすべてを楽しむこと。選手活動を終えた今も胸に抱き、次なるチャレンジへ全力で突き進んでいきたいと思っています。



## テクニカルディレクターとしてサッカー部を指導

サッカー部 中西哲生 (1992年・経)

7年前からテクニカルディレクターとして、サッカー部の指導に携わっています。

私たちの現役時代は、関西学生リーグでは3位以内、夏の総理大臣杯や冬のインカレではベスト8という成績が、毎年クリアすべきノルマでした。

しかし近年は他の大学の台頭もあり、指導し始めてからの7年間は1部昇格、2部降格を毎年繰り返しています。チームの戦術的な指導は、日々現場にいる監督、コーチたちが浸透、進化させています。仕事の関係上、現場に頻繁に足を運ぶことはできませんが、技術的な部分の指導は継続的にサポートしています。

普段はテレビやラジオといったメディアで仕事していますが、2010年からは、長友佑都選手をはじめ、プロサッカー選手のパーソナルコーチとしても活動しています。現在は、スベ

イリーグのマジョルカで活躍している久保建英選手(20)、レアル・マドリード下部組織の中井卓大選手(18)、ベルギー2部ロンメルSKに移籍した斉藤光毅選手(20)など若い世代を中心に、十数名の選手たちを定期的に指導しています。

そんな彼らに落とし込んでいく技術メソッドをサッカー部の選手たちに伝え、彼らがより自分を上手く表現する力になればと考えています。今シーズンは私がサッカー部に携わって、5度目の関西学生リーグ1部での戦い。何とか1部に残留するべく、スタッフ、選手たちと切磋琢磨していきます。



筆者近影

## ドイツで国際体操祭に参加

体操競技部 山野修一 (1986年・法)

私の体操競技との出会いは、通っていた小学校の体操部に3年生の時入部したことに始まります。

中学、高校でのインターハイ出場など競技生活を経て、82年に同志社大学体操競技部に入部しました。練習場は新町キャンパスの隣にあった第一従規館2階で、夏は40度、冬は底冷えする場所でした。当時の体操競技部は1部校(全国で12校)から2部校となって久しく、団体(5名)を組むのも厳しい状況でした。試合の応援や練習に来られる先輩方も限られていました。

こうした状況を打開するため、私の入部前年から先輩方との関係再構築、技術レベル向上のための練習方法の改善が進められていきました。当時同様な状況であった慶応大学、立教大学とは定期戦で互いに切磋琢磨しながら交流を深めていたと思います。

大学3年生の冬、コーチの勧めでドイツのコブレンツで開催さ

れた国際体操祭に参加し、ドイツや中国のオリンピック選手もいる中で演技ができたことは、一生の思い出となりました。

その後主将として改革を引き継いで、OB・OG会との連携を強化、関西インカレでは数年ぶりに団体3位を獲得することができました。恵まれた練習環境もなく一流選手の集ったチームではありませんでしたが、同志社大学体操競技部の一員として苦楽を共にした皆様と過ごした日々は何事にも替えることのできない貴重な時間であり、こうした経験が出来たことに感謝しています。



## ぬか喜びに終わったレギュラー抜擢

テニス部 港 章 (1975年・工)

私は高校入学と同時にテニス部入りし、大阪でランキングされるまでになりましたが、大学が工学部だったため、当初はテニスを止めて勉学生活を送っていました。そんなある日、高校時代のテニス部の親友と梅田の地下街で一念発起。ともに体育会に入ろう、入った限りは絶対に最後までやり通そうと飲めない酒で誓い合いました。



テニス部の1年生はもっぱら小間使い、練習前のコート整備が一番の仕事で、石灰を溶いてジョウロに入れラインに沿って線を引く、慣れるまで苦労しました。もう一つの苦労が当時、陸の孤島と言われた岩倉にコートがあったことで、練習後にコート整備をして

帰ると夜の10時頃になってしまいました。

そんな中、立命館大学との練習試合で、私はレギュラーに抜擢されました。キャプテンのKさんの起用方針であり、今でも感謝しています。当日は猛アピールしようと意気込んでいましたが、急な降雨で中止となり、私の運も飛んで行ってしまいました。以来、高校時代の実力が発揮できず、3年生になってようやくレギュラーになり、関西学生界ではランキング入りしましたが、結果的に辛い思い出ばかりが残っています。

社会人になってすぐの頃、神奈川県平塚の大会でいきなり優勝や準優勝をしました。学生時代の努力が花開いたようです。

卒業して45年になります。日本体育協会の公認指導員の資格もいただきました。今でも近くのクラブで年長組のコーチをやっています。

## 準サークルから指導部へ！

応援団 藤田昇良 (1988年・商)

昭和59年4月・入学式の後、キャンパスを歩いているとクラブ勧誘の3人に囲まれました。応援団は2年前に不祥事でリーダー部が解散、吹奏学部とチアリーダー部の2部で活動していて「リーダー部復活」のための勧誘でした。お年玉やアルバイトの貯金で進学して、仕送りがなくアルバイトをしないと学業を続けられない自分はクラブ活動をする余裕はありませんでした。しかし母校を思う熱意に私事を忘れさせてしまいました。

実際の活動は応援団の下部組織「準サークル」という立場で、学ラン着用は許されず水色のトレーナーで応援する日々でした。2回生になると新入生勧誘です。正式団員ではないという気持ちが先輩のように思いを伝えることができません。それでもついてきてくれるという後輩達が現れました。

私生活では体育会スキー部の松本正博先輩の下宿にお世話にな

りました。そんなご縁から応援団の状況をお話するとスポーツユニオン祝勝会で演舞演奏のご依頼いただき、応援活動の幅が広がりました。不祥事は同志社スポーツにも多大なご迷惑をおかけしたわけですから挽回の機会をいただいたのです。

私が卒業して2年後、「準サークル」は同志社大学応援団「指導部」として正式に認められました。在学中の果たせなかった約束を後輩達がつないでくれたのです。

翌年秋、大団旗はためく神宮球場。硬式野球部が立教を降し優勝しました。それはまさに指導部への昇格を祝っていただいたかのようでした。







喜びを分かち合う

# ラグビー部 春季トーナメント優勝

ラグビー部が「2021関西大学春季トーナメント」決勝で、昨季の大学選手権王者・天理大を下して優勝！

ついに関西の頂点に。ラグビー部が春季トーナメントの決勝で、昨年度の大学日本一の天理大を下して優勝。関西セブンズに続くダブル制覇で、春シーズン締めくくった。コロナ禍で大学選手権辞退となった昨季の無念さを糧に、一丸となって突き進んできた取り組みが実を結んだ。

昨年度の大学選手権は、関東勢の優位が長く続いた中、天理大が1984年度の同志社以来、関西勢として36年ぶりに制して新しい時代の到来を感じさせた。天理大の優勝は関西勢にとって大きな刺激となり、同志社も創部初となる共同主将制を採用するなど新たな体制で練習を重ねて春シーズンに臨んだ。

天理大との決勝戦で勝負の鍵を握ったのはディフェンスだった。「勝てるかもではなく、勝つつもりで臨んだ」（南・スポ4）。この言葉を体現するかのようにフルタイム（or全試合時間を通して）、強豪天理大に全く臆しなかった。逆に常に前に出るディフェンスで圧倒した。低く前に出る

タックルで天理大に思い通りのプレーをさせなかった。大型選手に対しては、2人以上で防御し、突破を許さなかった。孤立した選手をつくらないことで確実にボールをキープし、敵陣に果敢に攻め込んだ。FWに限らず、BKも力強いプレーを見せた。

長かった準備期間に磨いてきたセットプレーやブレイクダウンのスキルが勝利を導いた。意識してコミュニケーションを図り、選手個々の主体性を重視することにより一層チームの絆を強くし、束となって戦う強さを示した。ノーサイドの笛が鳴る



スタメンデビューの奥平(法1)も活躍

と同時に、選手たちは喜びを爆発させた。勝ったことへの興奮と、自分たちのしてきたことが通用した自信を感じさせる誇らしげな表情だった。

昨年度、大学日本一に輝いた天理大を下したことに、紺グレファンも沸き立った。天理大に勝利するのは2015年秋以来6年ぶりだ。待ちに待った瞬間に鳥肌が立つのを感じた。今年の同志社は一味

違う。「同志社の復権を」。幾度となく言われたこの言葉が続けたこの言葉が現実味を帯びてきた。田村(スポ4)は「僕らの目標は秋シーズんで関西優勝して、日本一が最終目標」と力強く宣言。いよいよ勝負の秋。さらに強くなつて秋のリーグ戦の頂点に立つ紺グレが今から待ち遠しい。

米澤千種  
(社会学部3年)



試合後、笑顔を見せる選手たち



決勝トライを決めた梁本(社3)

連載 ⑪

登録団体活動レポート

同志社東京41会

北濃登美男(66年・法)

# 総会や分科会で活発な交流

## 発足の経緯

2005年の「春の集い」の折、東京會館での同期の初顔合わせは15名でした。

その年の12月にごんご銀座一丁目店で41会の発足を開催。25名の参加から始まりました。

まずは何から始めるか。アンケートで皆さんの意見をお聞きして、総会は4月1日に、ほかに暑気払い、新年会、分科会としてゴルフ、ハイキング、名所めぐり、名物食事会、麻雀、ス



2010春の集い

キー、カラオケ、釣りの各部会を、担当幹事を決めて実施することとなりました。

## 第13回「同志社東京・春の集い」

「春の集い」はその前年の12回目より当番年次制で実施する事となり、13回(2010年)より本格的に当番年次が実行委員会を結成。開催案内からガイドブックまで、すべて実行委員の手造りで実施する事になりました。当番年次は41年、51年、63年の3年次会でしたが、メインは41会が企画。前年の10月から何回も会合を重ね、手探り状態から積み木を積み重ねるように仕上げて行くうちに、より深い絆が出来上がった事が実感できました。その年テーマが「さなる絆、新たな縁」でした。

## 現在の活動状況

現在、会員数92名、コロナの中です約2年間は休眠状態

### 団体概要

【団体名】同志社東京41会  
【設立年月日】2005年12月3日  
【代表者】代表幹事 坂本英和(1966年・商)  
【会員数】92名  
【連絡先】hide2858@agate.plala.or.jp(代表幹事 坂本英和)



ゴルフ部会

ですが総会は毎年4月1日に開催し、年度の活動計画を部会毎に発表しスタートします。全体会合はその他夏に暑気払いを、1月には新年会を開催します。参加者は30数名程度、多いとき(帝国ホテルでの新年会)は40名以上の時もあります。

部会については、以下の通り。

- ◎ゴルフ部会：全体コンペは年2回、3組前後で実施しています。その他、希望者で「you志ゴルフ」として、毎月村上部会

長を中心にプレーしています。ゴルフはコロナの中でも実施しています。

◎シャンテの会(カラオケ)：毎月新橋方面で1回。10名前後の会員で、クリスマスパーティーは20名前後で大々的に開催されています。

◎麻雀部会：毎月有楽町で1回。これはオープンのかです。から、学年を問わず、愛好家が多いときは3卓以上になる場合もあります。健康麻雀です。ので賭け事はしませんが、会費の中で順位賞がもらえます。

◎JOYの会(歩こう会)：年2、3回。時には宿泊旅行も企画されます。「八重の桜」の時は会津若松へ。また新島先生の生家、安中方面とか。

卒業50周年記念旅行では伊豆高原へ、ハイキング、ゴルフも兼ねて。このときも25名の参加でした。

◎ハイキング部会：春、秋の2回



帝国ホテルでの新年会

奥多摩、丹沢、等のハイキングと遠征も、中央アルプス千畳敷、木曽駒ヶ岳、上高地徳沢園、徳本峠、富士山にも登りました。等々で行事参加数は合計454名(2018年度)でした。

その他にスキー部会も長らく開催していました。

以上の活動も昨今のコロナウイルス禍のため、ゴルフ以外では皆様と懇親を深める機会がなくなり、大変寂しい限りであります。

早いコロナ感染の終息を祈つてやみません。



連載  
企画

# 片桐家同志社五代記

その三十八

文／片桐 陽(67年・工)

中学・高校の学生聖歌隊、ホザナコーラスの仲間、大学入学後始どがグリークラブか学生聖歌隊に入部した。今回は、私が入部した学生聖歌隊 DOSHISHA STUDENT CHOIR (DSC) についての話である。

坊を溝川でまる洗い洗っているのを見て息を忘れる思いがした」と書いている。

当時日本基督教団社会部長であった田崎健作牧師から救援の学生を送ってほしいという要請が天下神学部長に届き、助手

の飯清を隊長とする学生の救援隊を派遣することになった。同志社大学以外にも同志社女子専門学校を含む各学校、YMCA、YWCA、学生宗教部などのキリスト教組織があったが、期せずして皆が手伝いに行こうという声があがり救援隊が組織され、まる2か月間にわたる救援活動が行われたのである。

その頃の社会通念からすると、男女学生が合宿するなどというのは女専の校長であった我が大叔父片桐哲は心配し、監督者もつけずに男女学生が行くことに反対した。そこで天下神学部長が保証するというかたちで、学生の身分ではあったが「準職員」ともいえる飯を総責任者にしたのである。

救援隊を派遣する前に学生、宗教部は聖歌隊の協力を得て2日間京都市内各地に出掛け募金し、慰問品を集めて回る。7月2日には現地でのような活動が望まれているかを知るために先発隊3名を送り、結果として日本基督教団社会部の委託事業をして託児所とミルクステーションを開くこととなった。

5日には英文科の宣教師グラント教授の計らいで占領軍軍政部からトラックや断水対策の給水車などを回してもらった。テントなどの準備も整い、7日には救援隊の第一陣が到着し、翌8日から活動を開始した。

隊長の飯は当時のことを「夜になると、私達は町に出かけた。みんな歌が好きだったので、聖歌隊を編成して毎晩がキャンドルサービスだった。勿論私がコングクターだった。真っ暗な町でローソクを灯した私たちが讃美歌を唄い出すと、労働者や町の人々が集まって来た。百人も二百人も集まった。」と書いている。

救援活動にはこれ以外にも多くの団体が関わっているが、8月に入っても日本基督教団の働きとして残留したのは同志社救援隊のみで、如何に多くの期待がかけられていたかが分かる。

今出川・京田辺四季



ヤマガタ食品社長  
上窪清治(52年経)

## アーモスト館とケリー先生

同志社香里中学、高校、大学と10年間同志社で受験勉強とは無縁の自由な教育を受け、部活も、中学からレスリング部に入り、個人競技を楽しみましたが、大学では周囲のレベルの高さに舌を巻き、1年で退部した運動劣等生です。

大学2年生からアーモスト館の入寮が許されたのでそこでの生活が始まりました。ア館での生活は日常行事が目白押しでした。ほんの一例ですが、毎朝6時にたたき起こされ同居しているフェロー(派遣留学生)から英語のレッスン、週末は御所でソフトボール。火曜日は全館英語で会話。英原書を輪読したり、英会話でのキーキ作りを楽しんだりしていました。館内は先輩、後輩の別なく議論するため、寮生はニックネームで呼びあい、常にどこかで議論がおこなわれている百家争鳴の毎日でした。

ア館での学びのコアはなんといってもオーテス・ケリー先生です。彼のもとを訪れるドナルド・キーン先生はじめ、世界からのゲストとの会話は刺激的で私の人生を豊かにしてくれました。



アーモスト館の寮会(2列目右から2人目が筆者)

就職は岩根ゼミで金融論を学んだ関係で、日本興業銀行(興銀)に興味を持ち、門をたたきました。興銀時代は、常に背伸びをしながら仕事をし、自分を鍛えた記憶があります。みずほ銀行では、3行の文化の融合に腐心したことが思い出されます。

その後、新生姜で有名な岩下食品に転籍し、社長の補佐役として中小企業経営を学びなおし、現在ヤマガタ食品他3社の経営を任されて現在に至っています。就職してから色々な課題を乗り越えたのは、同志社の自由な教育と、ア館時代に学んだ国際性、特にケリー先生口癖の「主人性」が支えになったのかと思える今日この頃です。



DSC(後列右から2番目が筆者)

同志社創立146周年記念  
リユニオン&同志社大学ホーム  
カミングデー2021のご案内

◇2021年11月14日(日)

今年度はオンラインでの開催  
となり、特設サイトの動画は9  
時から配信される予定です。

◇開会式(LIVE配  
信)

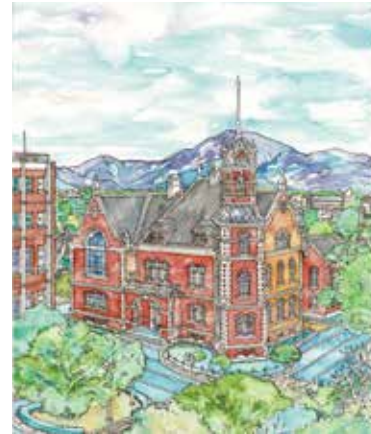
10:00~10:30(予定)

◇学長講演(LIVE配  
信)

11:00~11:40(予定)

◇園児学生の演舞演奏

◇バーチャル  
キャンパスツアー



クラーク記念館  
イラスト:山口潔子(同志社大学職員)

◇Zoomによるオンライン  
クラス会・同窓会

※詳細は、同志社大学HP

ホームカミングデー特設サイト  
(<https://hcd.doshisha.ac.jp/>)を  
ご覧ください。

## 校友会「俳壇」

選・谷村綱夢(72年・文)

### 鳥の声降りつぐ茅の輪くぐりけり

野田史子(63年・文)

〈評〉鳥の声を含め、季節感あふれる一句。俳句にはキーワードと  
しての季語があり、その言葉に触れれば、たちどころに「その頃」  
の湿り気、気温、風景の色合などが脳内に感じられてくる。この  
句の季語は、「茅の輪」。六月末の「夏越の祓」の神事で、境内の  
茅の輪をくぐって半年の穢れを払い、息災を願うのである。

※随時募集。一回2句まで。無料。掲載句には表記の  
整理・添削などを行う場合があります。投句は、はがきは  
〒104-0061 中央区銀座1-15-7 MAC  
銀座ビル3F同志社東京J俳句係へ、FAXの場合は  
03-5579-9729同志社東京J俳句係へ。

たにむら・たいむ  
俳人協会/現代俳句協会  
会員 俳句結社「炎環」  
同人会会長 情報紙「定  
年時代」俳壇選者など。

## 大募集! 《校友・私の一句》

## 編集後記

今号は「2020東京オリ  
ンピック・パラリンピック」におけ  
る同志社アスリート活躍の記事  
に「初秋の集い」ガイドブックに  
掲載予定であった原稿を加えて、  
全20ページに増大した「同志社  
スポーツ特集号」にしました。

表紙は同志社史上初の金メダ  
ルに輝いたフェンシングの宇山  
賢選手です。

新型コロナウイルス感染症拡  
大のため、昨年夏に開催が予定  
されていた東京オリ・パラは1年  
延期となり、「春の集い」も中止  
になりました。

昨年はオリンピックイヤーと  
いうことから、「春の集い」のテー  
マは「同志社スポーツとTOK  
YO2020」でした。

「春の集い」の中止により、ガイド  
ブック用に寄稿していただいた  
同志社スポーツ関係の原稿は今  
年に持ち越されていましたが、今  
年の「初秋の集い」もコロナ禍が  
収まらず開催中止が決定し、ガ  
イドブックを発行することがで  
きませんでした。

しかし、昨年寄稿していただい

た原稿は、どれも素晴らしく読み  
応えのあるものばかりでしたの  
で、執筆者のご了解を得て東京  
ジャーナルに掲載することにい  
たしました。

原稿を執筆していただいでか  
ら約1年半が経過してしました  
ので、一部の原稿については見  
直しが必要になりましたが、ご多  
忙中にも拘わらず早く修正に応  
じていただいた執筆者の方々に  
篤く御礼申し上げます。

ワクチン接種が進んでいると  
はいえ、感染力の強いデルタ株の  
蔓延等により早期の収束は難し  
そうです。一日でも早い事態の  
収束と皆様のご健康を心からお  
祈り申し上げます。

文責/新田博伸(77年・法)

### DOSHISHA TOKYO JOURNAL

2021.October. NO.125 同志社東京校友会

〒104-0061 東京都中央区銀座1-15-7 MAC銀座ビル3F

電話: 03-5579-9728

FAX: 03-5579-9729

発行人/横山 徹

編集人/新田博伸

印刷/株式会社スバルグラフィック

<https://www.doshisha-tokyo-alumni.jp>

mail:office@doshisha-tokyo-alumni.jp

HP 会員ページ  
ログイン情報

ID=doshisha  
PASS=1875

DAIKIN



人は寝ているあいだも、  
空気を吸っている。

だから私たちは、人の心と体に  
心地よい空気とは何かを考え続けています。  
人と空気のあいだに、いつもダイキン。

ダイキン工業株式会社